

YASKAWA

会 社 案 内

株式会社 安川電機

YASKAWA ELECTRIC CORPORATION

© 2025 YASKAWA Electric Corporation



Our Identity

安川電機は1915年の創立以来、自らの技術をもって事業にあたるべく、「技術立社」を社是として掲げ、事業領域を「電動機(モータ)とその応用」としながら常に時代の最新技術にチャレンジしてきました。

現在安川グループを取り巻く事業環境は、半導体を中心とした世界的な部材不足、為替変動や地政学リスクなど、急速に変化しています。その中でも常に安川グループ経営理念を原点に据えながら、培ってきたコア技術と「i³-Mechatronics(アイキューブメカトロニクス)」の実践を通じ、サステナブルな社会に貢献することで、社会から必要とされ続ける企業を目指します。

時代をこえて、
ものづくりへの情熱は
変わらない。

2020~



業界初

2021年 YRM-Xコントローラ
セルの様々なデータを
高速・リアルタイム・時系列に同期し、
統合的に制御するコントローラ

2015~

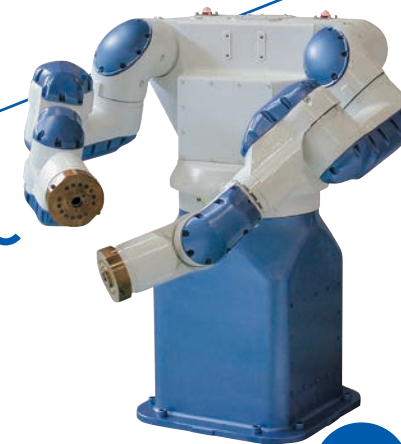
創立100周年



世界初

2017年
GaNパワー半導体を搭載した
アンプ内蔵サーボモータ

2000~



世界初

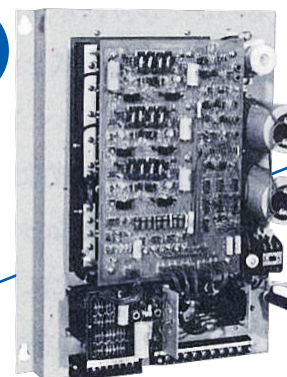
2005年
MOTOMAN-DA20
産業用双腕ロボットの量産化

世界初



2005年
Varispeed AC
マトリクスコンバータ

世界初



1974年 VS-616T
トランジスタインバータ

1970~

1958年
ミナーシャモータ

応答速度が従来製品の100倍という
画期的な直流サーボモータ。
現在のサーボモータのもととなる製品。



1950~

1915~

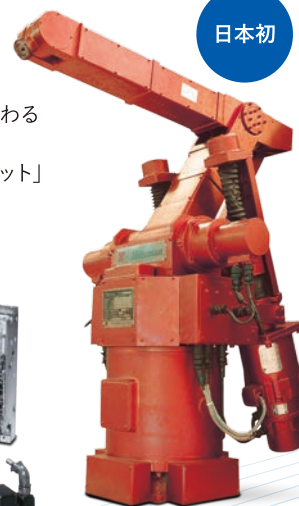
創業



1917年
三相誘導電動機20HP
当社初の販売製品

1977年
MOTOMAN-L10

それまで主流であった
油圧式のロボットに代わる
国内初の
「全電気式産業用ロボット」

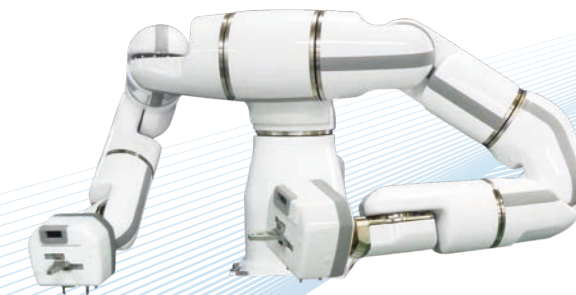


日本初



1983年
ACサーボドライブシリーズ

業界のニーズに応え、DCサーボの牙城から
方針転換し、ACサーボを製品化



2013年
分析前処理作業用
バイオ・メディカル分
処理作業向けに、双
システムを開発

ロボットシステム

野での試薬や検体の分析前
腕ロボットを使用したロボット



業界最小
最軽量

2017年
MotoMINI
6軸の多関節ロボットで
業界最小・最軽量となる
ロボットを製品化



業界
最高

2021年 Σ-Xシリーズ
業界最高のモーション性能と
デジタルデータソリューション



2017年
MOTOMAN-HC10
人協働ロボット



業界初

2023年
MOTOMAN NEXT
ロボット自身が周りの
環境に適応しながら
判断する自律性を持った
次世代ロボット

Our Principles



当社は創業者・安川第五郎の「創立の動機」をもとに、1970年代の第一次オイルショックの混乱の中における経営への危機感から、当社の企業理念を成文化した「社憲」を1979年に制定しました。そして2022年にグローバル全従業員の理解深耕・実践強化に向け、その理念を「私たちの存在意義(Our Purpose)」、「私たちの価値観(Our Values)」、「社員の心得(Our Actions)」に分け、安川グループ経営理念として改めて整理しました。

この経営理念は、私たちが事業を遂行する目的(存在意義)と、品質・利益・市場を核とする基本原則(価値観)ならびに日々の行動指針(社員の心得)の旗印となるもので、そこに込められた精神は時代が移り変わっても揺らぐことのない『私たちの原点』そのものです。私たちは、この原点を安川グループが未来に向けて持続的に成長していく心の拠り所として、そして判断の軸として日々の実践に努め、経営理念の実現を目指します。



創業発起人
安川 敬一郎

当社創業発起人である安川敬一郎は、欧米の新しい知識と思想を学び、炭坑業に従事するとともに紡績・製鉄・鉄道・銀行経営にも事業を広げていきました。また、人材育成にも力を注ぎ、1909年に技術者養成の専門学校として明治専門学校(現 国立大学法人 九州工業大学)を開校、多くの技術者を輩出しています。



創業者
安川 第五郎

蒸気機関に代わる新たな動力として電動機があらゆる産業分野へ進出し始めようとしていた大正時代の初め、その先端技術の基礎を学んだのが敬一郎の五男、安川第五郎でした。「資金は出すが、口出しはせぬ」との敬一郎の言葉に従い、第五郎は1915年に、安川電機の前身である安川電機製作所を設立しました。当初は、そのほとんどが輸入品であり国産は極めて少なかった炭坑用電機品の受注製造からスタートしました。第五郎は、「創立の動機」として、進んで国産電機品を海外へ輸出することで、少しでも国家に貢献したいとし、先行する欧米の模倣でなく、特有の技術をもって事業にあたることを目指しました。

安川グループ経営理念

Our Purpose

—— 私たちの存在意義 ——

当社グループの使命は、
その事業の遂行を通じて広く社会の発展、
人類の福祉に貢献することにある

安川電機は創業以来「電動機(モータ)とその応用」を大きな柱とし、事業を拡大してきました。その事業の遂行を通じて当社の多様な技術・製品が社会に広がることで、機械の高度化やものづくりの自動化・省力化、労働力の不足や3Kからの解放といった社会課題の解決につながります。人々が安全で安心な人間らしい生活を送れる社会をつくること。これを私たち安川グループの存在意義とします。

Our Values

—— 私たちの価値観 ——

当社グループはこの使命達成のために、つぎの3項目を掲げ、その実現に努力する。

1 品質

品質重視の考えに立ち、常に世界に誇る技術を開発、向上させること。

2 利益

経営効率の向上に努め、企業の存続と発展に必要な利益を確保すること。

3 市場

市場志向の精神に従い、そのニーズにこたえとともに需要家への奉仕に徹すること。

Our Actions

—— 社員の心得 ——

私たちは、当社の伝統を尊重し、経営理念の実現に努めるとともに、世間の信頼を高め、もって会社の繁栄と自らの幸福を求めます。とくに、つぎの5項目を日々の行動指針とします。

- 一、お客さま本位に徹しよう。
- 一、高品質と高採算をあわせて追求しよう。
- 一、研鑽を重ね、不屈の気概をもって競争に打ち勝とう。
- 一、視野を広め、発想を転換しよう。
- 一、互いに信頼を深め、一致協力に努めよう。

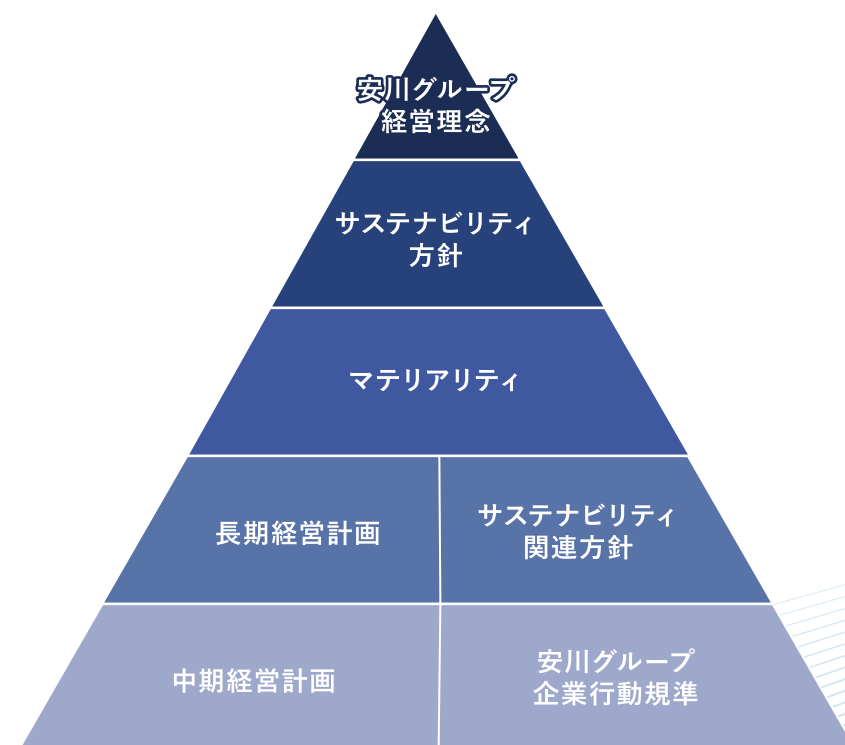
Action for Society

安川グループは、お客さまやお取引先、当社が事業活動を展開する国や地域、株主や投資家の皆さま、そして従業員等あらゆるステークホルダーの信頼に応えます。また、「事業の遂行を通じて、広く社会の発展、人類の福祉に貢献する」とした経営理念の実践により、持続可能な経済・社会の発展に寄与し、持続可能な企業価値向上を目指します。

サステナビリティに関する考え方および取組み

当社グループは「安川グループ経営理念」のもと、「サステナビリティ方針」を2021年度に策定しました。この方針に沿ってマテリアリティを特定し、長期経営計画や中期経営計画における目標を展開することで、戦略的なサステナビリティの推進を図ります。また、進捗のモニタリングを行い、PDCAサイクルを回していくことで、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

サステナビリティ推進の体系図



サステナビリティ方針

私たちは、安川グループの経営理念である「事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献すること」を基本的な考え方として、その実践を通じて持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努めます。

- 1.最先端のメカトロニクス技術によるイノベーション創出で、お客さまをはじめ社会への価値創造に貢献します。
- 2.世界中のステークホルダーとの対話と連携を通じ、公正かつ透明性の高い信頼ある経営を実現します。
- 3.世界共通の目標であるSDGsの達成を目指し、グローバルでの社会的課題の解決に取り組みます。

サステナビリティ課題・目標

サステナビリティ方針に基づき、持続的に成長するための重要課題として、「事業を通じた社会価値の創造と社会課題の解決」と「サステナブルな事業／社会に寄与する経営基盤の強化」の2つを軸としたサステナビリティ課題・目標(マテリアリティ)を特定しました。また、これらマテリアリティに関する取り組みについて、社長を委員長とするサステナビリティ委員会において進捗を管理してまいります。

事業を通じた社会価値の創造と社会的課題の解決

- 「i-Mechatronics」を通じたパートナー連携で産業自動化革命の実現
- クリーンな社会インフラ構築と安全・快適な暮らしの基盤づくり
- オープンイノベーションを通じた新たな技術・事業領域の開拓

サステナブルな社会／事業に寄与する経営基盤の強化

- サステナブルな生産性の高いものづくり
- 働きがいのある職場づくりと人材育成
- 公正かつ透明性の高いガバナンス体制



ものづくりの魅力発信や未来人材の育成に取り組む「安川電機みらい館」

Our Vision

長期経営計画「2025年ビジョン」

Long-term Business Plan "Vision 2025"

安川グループは、2015年の創立100周年を起点とした10年間の長期経営計画「2025年ビジョン」(2016～2025年度)を掲げています。「2025年ビジョン」では、コア事業の進化により、お客さまの経営課題の解決に寄与するとともに、メカトロニクス技術を応用した新規分野の拡大により、社会に新たな付加価値を生み出すことを基本方針としています。

〈 2025年に向けた外部環境認識 〉



〈 安川グループ経営理念 〉

事業の遂行を通じて広く社会の発展、人類の福祉に貢献する

〈 2025年で目指す姿 〉



「i³-Mechatronics」を軸とした
工場の自動化／最適化事業

〈 2025年ビジョン 〉

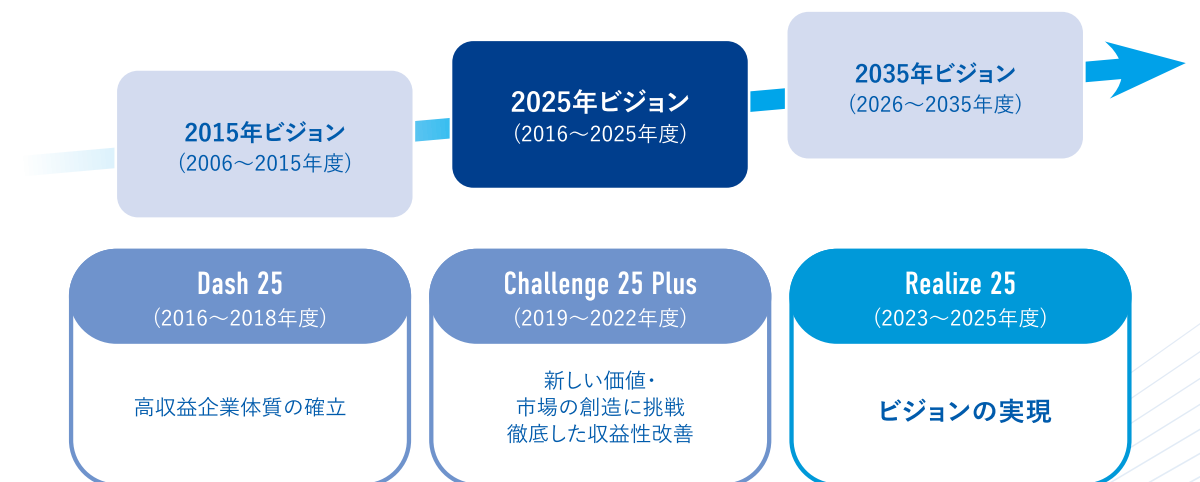
社会の持続的な発展に向けた
新たなメカトロニクス応用領域



中期経営計画「Realize 25」

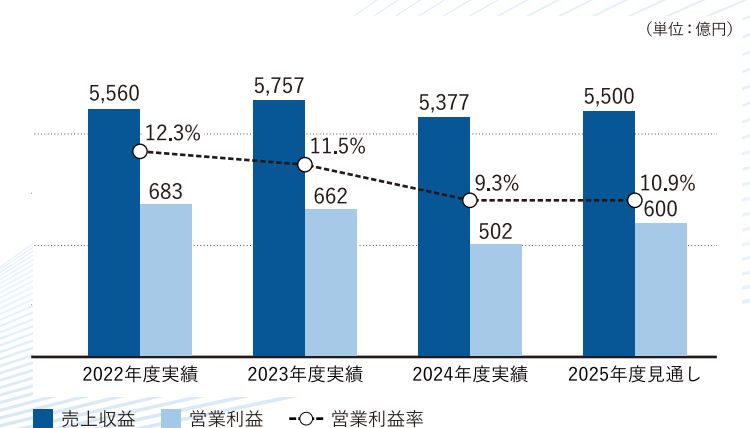
Mid-term Business Plan "Realize 25"

安川グループは長期経営計画「2025年ビジョン」の達成と、その先も持続的成長を遂げるため、2023年度から2025年度までの3年間ににおける中期経営計画「Realize 25」をスタートしました。



〈 業績推移 〉

投資については、将来の持続的成長を確固たるものとするために、3年間の累計で1,500億円を計画しています。内製化・自動化の拡大、工場・事業所の再編、需要地生産体制の強化による付加価値改善を主な目的として実施します。



〈 目指す姿と基本方針 〉

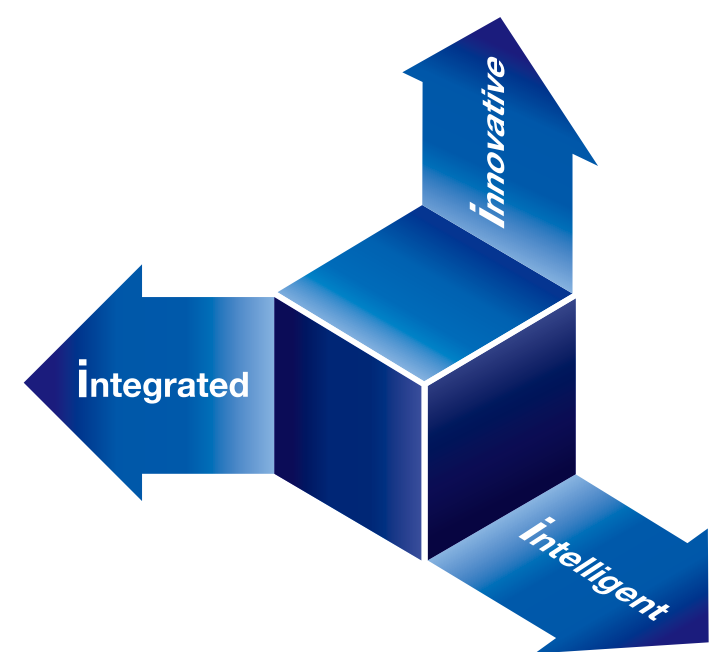
「Realize 25」では、「i³-Mechatronics」の展開とロボティクスの進化により新たな価値を創出し、「2025年ビジョン」を達成することで、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

Solution Concept

2017年、当社はソリューションコンセプト「i³-Mechatronics(アイキューブ メカトロニクス)」を発表し、当社のサーボ、インバータ、ロボットを使った工場の生産ラインの自動化に代えて、それらを搭載した機械・設備を稼働させたあとのデータ活用による生産性や品質の向上、そしてAIを活用した故障予知による「止まらない生産ラインの実現」といった、さまざまなデジタルソリューションを提案しています。

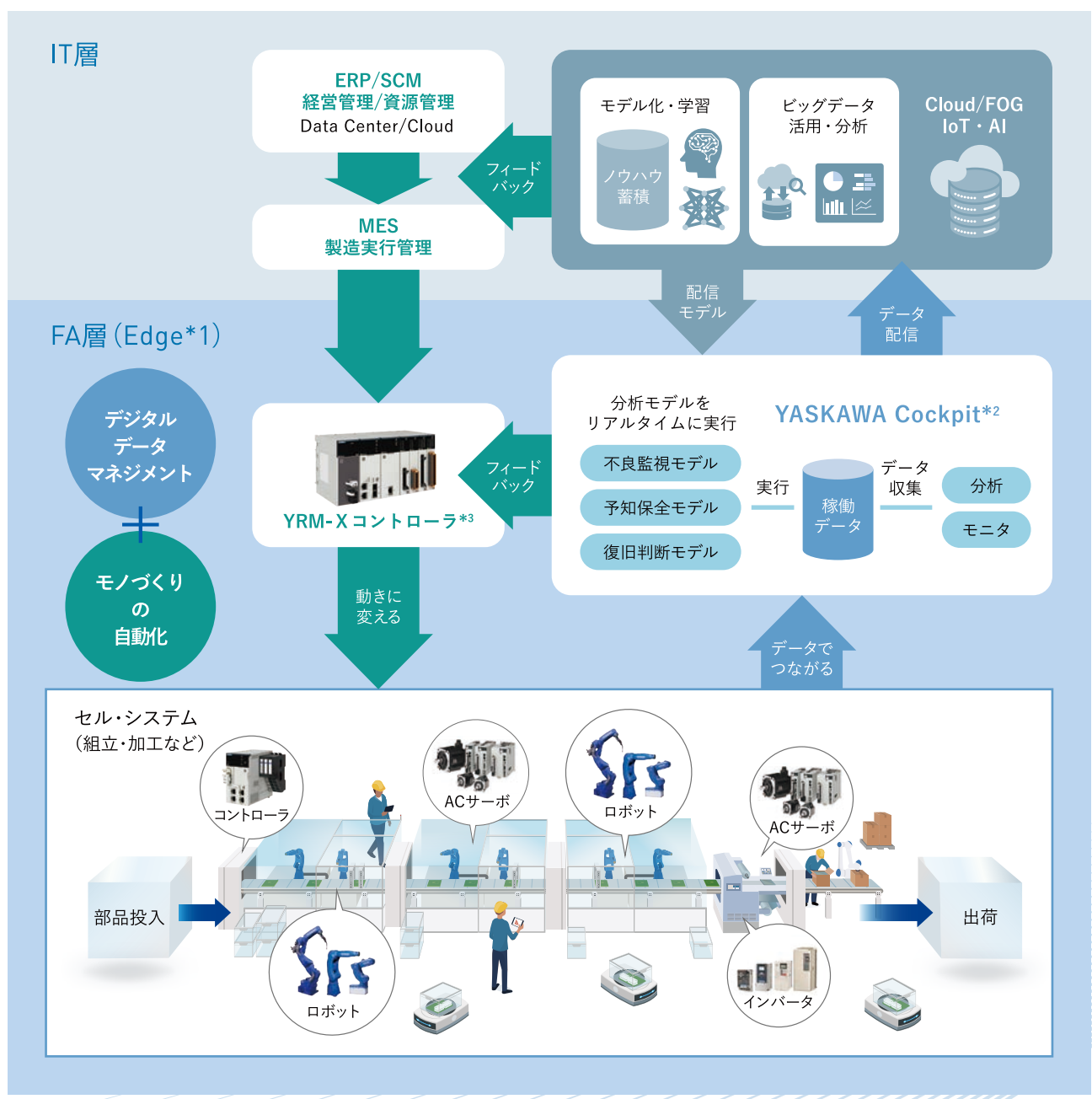
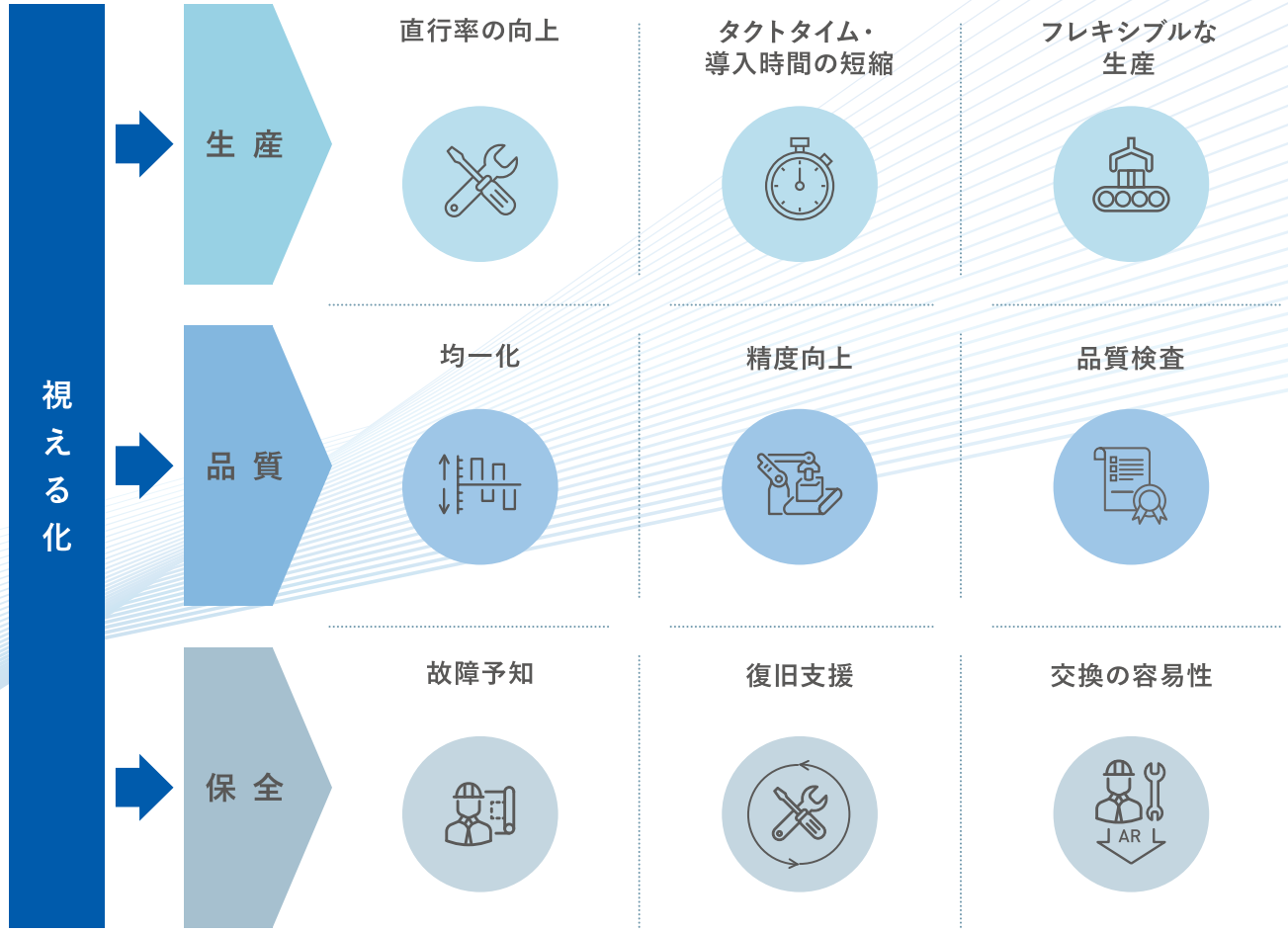
「i³-Mechatronics」は、① integrated(統合的)、② intelligent(知能的)、③ innovative(革新的)の3つの“i”のステップで進めます。

これにより、お客さまが目指すスマート工場の実現に向けて、生産・品質・保全などの観点からものづくりにおける様々な課題の解決につなげます。



i³-Mechatronics
アイキューブ メカトロニクス

「i³-Mechatronics」による
お客さまが求める「コト(改善・進化)」の解決(例)



*1 リアルタイム性が求められるデータ解析とフィードバックを行うための情報処理の領域(工場や生産拠点内など、生産現場に近いエリア)
*2 生産現場の設備や装置のデータをリアルタイムで収集・蓄積・分析することができるソフトウェア
*3 装置や産業用ロボットなどで構成された「セル」の様々なデータを高速かつリアルタイムそして時系列に同期し、統合的に制御するコントローラ

Driving Society

モータを回し続けて100年。
培ってきた技術で産業・社会の発展に貢献します。



Motion Control

世界トップクラスのACサーボモータとインバータ

モーションコントロール事業は、大きくACサーボモータとインバータの2つの製品群で構成されています。ACサーボモータは、高速・高精度に位置を制御することを得意としており、その特性から、高速・高性能な様々な設備や自動機械に適用されています。インバータは、モータの電源周波数を自在に変えることでモータの回転数を制御する装置です。インバータの登場は、工場の生産性を飛躍的にアップさせ、産業・社会の発展・省エネに貢献しています。当社は、モータ制御のリーディングカンパニーとしてACサーボモータは世界シェアNo.1を保ち続けており、確かな実績でお客さまからの信頼をいただいています。

ACサーボモータの主な用途

- － 半導体・液晶製造装置
- － 電子部品実装機
- － 工作機械
- － 繊維機械
- － 食品・包装機械
- － ロボット



ACサーボドライブ
Σ-Xシリーズ

インバータの主な用途

- － 空調機器
- － エレベータ・エスカレータ
- － ファン・ポンプ
- － クレーン
- － コンベヤ



PM モータ

安川インバータシリーズ
GA700

マトリクスコンバータ
U1000

太陽光発電用向け製品で、 再生可能エネルギーの有効活用に貢献します。

世界的に地球温暖化対策として再生可能エネルギーの活用が進んでいます。当社は、太陽光発電用パワーコンディショナにより、太陽光発電のトータルコスト低減による再生可能エネルギーの主力電源化に貢献しています。



太陽光発電用 パワーコンディショナ

Smart Factory

人とロボットが共存・協働する
理想の自動化を実現します。



Robotics

グローバルに活躍の場を広げる産業用ロボット“MOTOMAN(モートマン)”

当社は、1977年に日本で初めて全電気式産業用ロボット“モートマン”を発売して以来、世界の産業用ロボット市場をリードしてきました。現在の主力でもある自動車生産向けのアーク溶接用途から始まり、スポット溶接やハンドリング、組立、塗装、それにクリーンルーム内における液晶・有機ELディスプレイや半導体製造分野でのハンドリング・搬送など、あらゆる産業分野で活躍しています。近年は、少子高齢化による労働力不足へのソリューションとして、これまで実績の少なかった食品分野など、ロボット適用領域の拡大が進んでいます。



スポット溶接



パレタイジング

「人の代わりに作業するロボット」から「人と共に作業するロボット」へ

ロボットはさらなる高速化や高精度化、複雑な動作への対応や人との共存に向けた安全機能の強化によって、産業用にとどまらず様々な分野に活躍の場を広げています。2017年に安全柵なしで人と協働して作業することができるロボットを開発しました。家電製品やコンピュータ、通信機器など、今までロボットがあまり導入されていなかった分野においても自動化に貢献します。



人協働ロボット
MOTOMAN-HC20DTP

注)MOTOMAN-HCシリーズは安全機能により安全柵なしのシステム構築が可能ですが、全てのケースにおいてリスクアセスメントを実施する必要があります。

Secure Lifeline

YASKAWAのシステムエンジニアリング技術が、
私たちの暮らしを24時間支えています。



System Engineering

水処理プラントなどの公共用設備の安定稼働を見守っています。

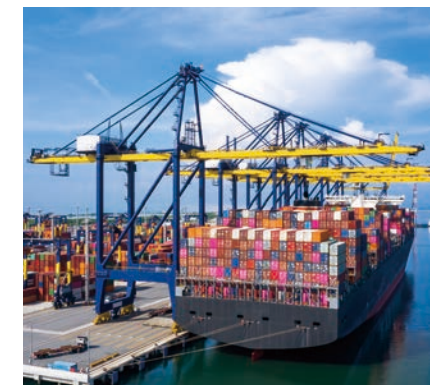
当社は水処理プラント設備や交通インフラ設備など、安定稼働が必須の公共用電気設備を手がけています。一時たりとも止めることのできない上下水道設備には、確かな信頼性だけでなく、環境問題や災害対策などの社会的ニーズを満たすソリューションを提供。省エネ、高度浄水処理、施設の有効活用など多様なニーズに応えるため、最先端のシステムエンジニアリング技術を駆使した新しいシステムを提案・構築します。



水処理施設

高度なシステムエンジニアリング技術で最適な制御システムを提供します。

当社は長年にわたり、鉄鋼プラント設備などの産業用システム電機品の開発・設計・生産に携わり、豊富な経験を積み重ねてきました。国内で稼働中の全ての高炉に当社の制御装置、ドライブ装置が採用され、また、世界の大型高炉*システムにおいてもトップシェアを誇り、24時間の安定操業を支えています。当社は、高度なシステムエンジニアリング技術と高品質な製品で、信頼性の高い産業システムを提供し、快適な暮らしと豊かな町づくりに貢献しています。



港湾クレーン



高炉設備

* 容積5,000m³以上

Passion for Innovation

世界を変える高付加価値の技術革新に
挑戦し続けています。



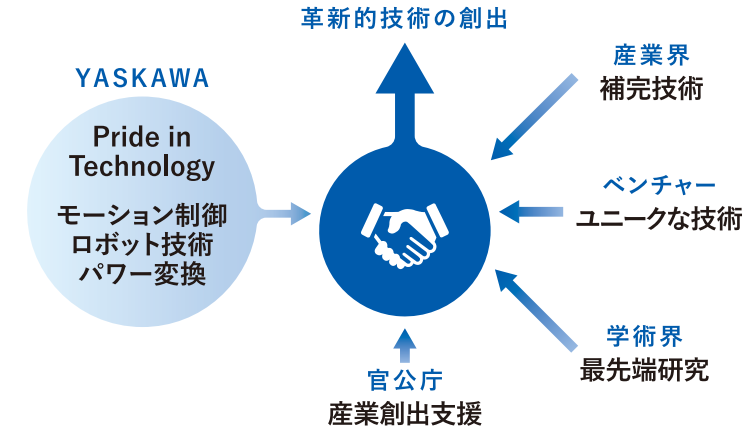
Research & Development

当社は、経営理念にある「品質重視の考えに立ち、常に世界に誇る技術を開発、向上させること」をモットーに、ものづくりを進化させる技術を生み出し続けてきました。

2021年、お客さまからの要求にスピーディーに対応できる研究開発体制の構築を目的に、基礎技術開発、製品設計、評価・分析、生産技術から量産試作までを、研究開発拠点「安川テクノロジーセンタ(YTC)」に集約しました。YTCを中核に、革新的かつ効率的な開発環境を実現するとともに、外部との技術連携によるオープンイノベーションを図り、世界一・世界初にこだわった製品開発に邁進しています。

YTC Concept

安川グループ全体とオープンイノベーションにより、
お客さまが勝てる製品をタイムリーに開発できる技術集約拠点



当社が目指すオープンイノベーション



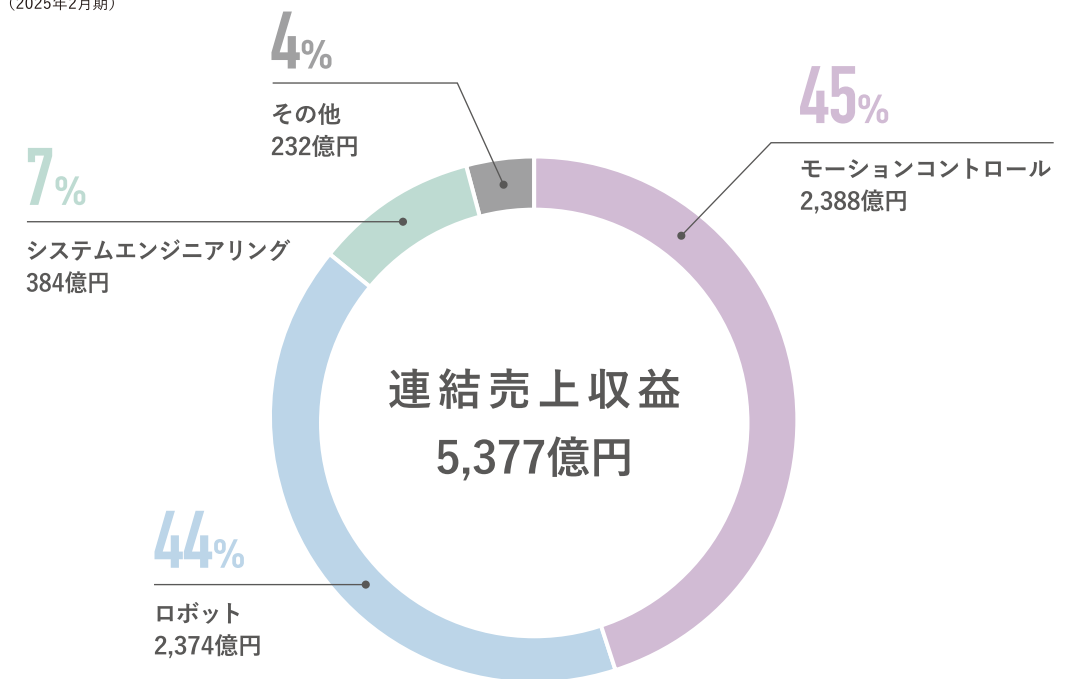


Company's Outline

会社概要 (2025年2月28日現在)

会社名	株式会社 安川電機 YASKAWA Electric Corporation	代表者	代表取締役社長 小川 昌寛
創立	1915年(大正4年)7月16日	資本金	306億円
本社所在地	〒806-0004 北九州市八幡西区黒崎城石2番1号 TEL. 093-645-8801	発行済株式総数	266,690千株
		株主数	41,080名
		従業員数	連結 12,833名
		売上高	連結 5,377億円(2025年2月期)

事業別売上高内訳 (2025年2月期)



役員 (2025年5月28日現在)

代表取締役会長	小笠原 浩	取締役 監査等委員	生山 武史	上席執行役員	Michael Knapek	執行役員	大倉 正彦
代表取締役社長	小川 昌寛	社外取締役 監査等委員 ^(*) (⁽²⁾)	松橋 香里	上席執行役員	陣内 信朗	執行役員	大塚 丈徳
取締役 上席執行役員	森川 泰彦	社外取締役 監査等委員 ^(*) (⁽²⁾)	西尾 啓治	上席執行役員	上山 顕治	執行役員	樋口 充章
社外取締役 ^(*) (⁽²⁾)	真茅 久則	社外取締役 監査等委員 ^(*) (⁽²⁾)	穂高 弥生子	上席執行役員	山田 達哉	執行役員	水谷 春林
		専務執行役員	村上 周二	上席執行役員	高田 浩志	執行役員	下池 正一郎
				上席執行役員	林田 歩	執行役員	足立 恭雄
				上席執行役員	岡久 学	執行役員	川崎 俊夫
				上席執行役員	一木 靖司	執行役員	久保田 由美恵
				上席執行役員	井手 耕三	執行役員	吉松 秀明
						執行役員	山田 正剛
						執行役員	Marcus Mead
						執行役員	山本 哲義
						執行役員	内山 孝弘
						執行役員	原 英則

(*)会社法第2条第15号に定める社外取締役 (*2)東京証券取引所の定めに基づく独立役員

Global Network

YASKAWAのビジネス拠点は世界約30カ国、生産拠点は12カ国に広がっています。(日本含む)



Network in Japan

全国に広がる営業拠点・サービス拠点で、フレキシブルにお客さまのニーズに対応しています。

